

第21回シグマ委員会炉定数グループ会合議事録

日 時： 3月21日(木) 13:00~18:30

場 所： 原研本部第2会議室

出席者： 川島(富士)，松延(住友)，菊地(東大)，中村(京大)，
小林(MAPI)，久家，永山(原電)，水田(NAIG)，瑞慶
覧(日立)，桂木，坂田，五十嵐，土橋，新藤(安川代)，石
黒(原研)

配布資料

- (1) 第20回シグマ委員会議事録
- (2) シグマ委員会FP Working Group会合議事録
- (3) MC²説明資料

議 事

1. 前回議事録の確認及び修正(略)

2. 報告事項

◎データセンターについて

◎ワシントンでNuclear DataのEvaluationに関するConference
があつて百田、中島両氏が出席された。

◎コード委員会の海外コード小委員会へシグマ委員会から参加させてもら
う。

◎人 事

○深井氏と飯島(NAIG)と委員を入れ換ってもらうことになり、幹事も
やっていただくことになった。

○寺沢氏の代りに松岡氏が当グループの委員となり運営委員もやっていた
だく。

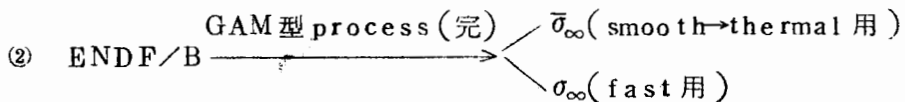
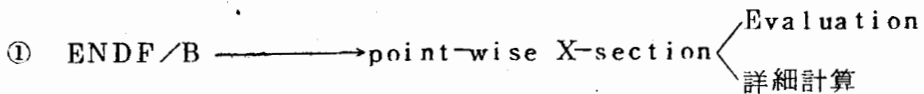
○西村氏の参加確認

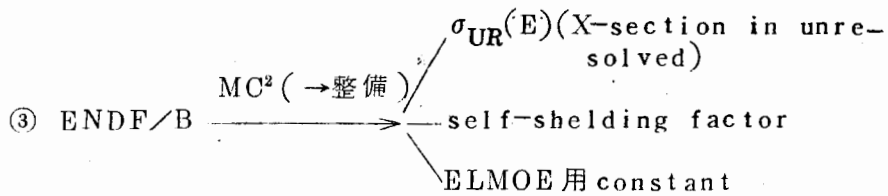
3. 42年度作業進捗状況について

- ◎ Pu系によるMURT型定数の評価 (坂田, 松延氏)
 - THERMOS に対する計算が終っている。
 - Fast領域の結果が1つだけ間に合わなかったので, 全部のCaseについて臨界計算(FOG)をすることに変更された。
- ◎ F.P作業 (坂田, 永山氏)
 - 資料(3)を中心に作業の進捗状況の説明があった。
 - 核データ・グループと作業内容が重複しない方が良いとの意見があった。
- ◎ データ・プロット (菊地氏)
 - テープを読む部分が多少変更され, プロッター専用のテープを作るようされた。
 - A/Wのテープからも書けるようになっている。(坂田氏)

4. 43年度計画

- ◎ F.Pの作業予定 (坂田氏)
 - このグループだけでも150万ぐらい来年度必要であり, 炉定数グループの全予算に匹敵するが出来るだけ出して欲しいとの要望があった。
 - これに対して桂木氏より, “動燃より持って来ることができるとおもわれるので心配ないと思うが色々と面倒なことがからんで来る”との発言があった。
- ◎ GAM型ライブラリーの作成について (桂木氏)
 - 処理するdataはresonance parameterとpoint-wise curaveとconsistentになっているENDF/Bを用いた方がよい。これからは温度依存のあるcross section curveが得られる。
 - 次のような作業案が示された。





○水田氏より①についてはコード委員会でコードがすでに完成しているとの報告があった。

○この案について色々議論がなされたが、各研究機関の意見を聞いて見てはどうかとの発言があってそれぞれの機関から次のような意見及び要望が出された。4月初に幹事会(拡大)を開き、改めて議論されることになった。

○瑞慶覧氏(日立)

②番だけ必要とおもう。man power は出せない。

○水田氏(NAIG)

man power はいくらかは出さねばならないとおもう。54群データは是非必要Evaluation はやりたい所だけでやってはどうか。MC²は使えるようにすべきである。

○永山氏(原電)

①②はやるべきである。少なくとも②迄はやる必要がある。

○久家氏(原電)

①は水田氏と同意見。②はPu-239については是非やるべきである。

③は興味がある。

○小林氏(MAPI)

①は必要とおもう。②は労力は提供できないが結果は欲しい。

③はやってもよい。

○松延氏(住友)

或る程度 evaluation はすべきである。特に炉定数としての立場上必要なことはすべきだ。

○川島(富士)

①は必要と思う(原研でやってもらってはどうか)。③については此の種のもので使えることは意義がある。

○中村(京大)

少なくとも此の委員会でX-section setをつくり炉物理委員会に feed すべきである。

○嵐十嵐(原研)

①については本格的にはJPDR からの feed back があってはじまるとおもう。しかし将来の方向を考えるとという意味から必要とおもう。